

科目名	文学と言語					開講 キャンパス	神 埼
担当者	濱 田 隆						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	「文学」は、人々の実生活と密接に関連したものであるという前提に立って、歴史的、発展的な視点を持って日本文学の変遷を概説し、さらに、それぞれの項目の具体的な事例を努めて取り上げることによって、その特徴的な要素に注目する。そのために、古典文学をはじめとして「原典」の一部を扱い、「語源」にさかのぼるなどの言語的分野を参照することもある。						
授 業 の 到達目標	1) 日本語、特にその表記法の特徴について理解することができる。 2) 日本独自の短詩形文学の変遷に対する関心を持つことができる。 3) 文学作品の背後にある作者像に対して興味を持つようになる。 4) 社会の発展と文学との関連が理解できる。 5) ジャンル毎の日本文学の特徴を説明することができる。 6) 言葉の重要性を再認識して言語生活における課題を指摘することができる。						
学習方法	講義（視聴覚機材を使用）						
テキスト及 び参考書等	プリント配布						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎				20
受講者の発表			○				10
授業への参加度			○				10
その他	○	◎		○			60
	最終15回目のまとめの時間に、課題に基づくレポート執筆を課し、それを評価の眼目にする。						
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	(オリエンテーション) 初期文学の「個性」について、一つの事例を見る。						
第 2 週	日本文学の出発点である「古代歌謡」の特質を、『肥前風土記』の中に探る。						
第 3 週	『万葉集』の選者「大伴家持」と、集中の「特異な歌」に注目する。						
第 4 週	文字の普及を歴史的に整理し、「五十音図」を参考に「言語」について考える。						
第 5 週	和歌の復興を招来した「歌合せ」の意義を考え、『古今和歌集』の史的価値を確かめる。						
第 6 週	「連歌」から「俳諧」への変遷の過程に、「芭蕉の人生」を見る。						
第 7 週	「求婚譚」を中心において、『竹取物語』の作者像を推測する。						
第 8 週	『源氏物語』の作者を紫式部だとする根拠と、その「時代設定」を分析的に見る。						
第 9 週	『羅生門』を頂点として、芥川龍之介の文学に題材を提供した「中世説話」を概括する。						
第 10 週	一般民衆がその担い手となった江戸時代の文学と芸能について概観する。						
第 11 週	「言文一致運動」を視野に入れつつ、啓蒙期から自然主義までの「近代文学」を見渡す。						
第 12 週	言語の本質を踏まえながら、その変遷や現在の日本語について考える。						
第 13 週	小林多喜二 ① 「プロレタリア文学」への接近の跡を辿る。						
第 14 週	小林多喜二 ② 『蟹工船』の時代を考える。						
第 15 週	＊ 全体のまとめ（レポート執筆を含む）						
第 16 週							
備 考	特に古典を扱う際は一部「原典」に触れるが、細部の語意や語法等の学習は対象としない。また、努めて地元と関係の深い作品を挙げながら、言語文化としての文学の変遷について総括的に取り組む。						